

令和元年度における
主要施策の成果に関する説明書

令和2年9月

熊 取 町

令和元年度における主要施策の成果に関する説明書

議案第 号「令和元年度熊取町一般会計歳入歳出決算認定について」、

議案第 号「令和元年度熊取町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」、

議案第 号「令和元年度熊取町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について」、

議案第 号「令和元年度熊取町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について」、

議案第 号「令和元年度熊取町墓地事業特別会計歳入歳出決算認定について」、

議案第 号「令和元年度熊取町水道事業会計決算認定について」及び

議案第 号「令和元年度熊取町下水道事業会計決算認定について」

の各決算につきまして、地方自治法第233条第3項及び地方公営企業法第30条第4項の規定に基づき、議会の認定をいただきたく、ご提案申し上げるものです。

なお、令和元年度各会計の決算書をはじめ、関係書類をあらかじめ配付しておりますので、あわせてご覧ください。

はじめに、各会計の全般的な状況からご説明申し上げます。

一般会計につきましては、決算規模では歳入・歳出とも前年度に比べ大幅に減少し、実質収支におきまして、平成30年度に引き続き黒字決算となりました。

歳入総額ですが、147億9,505万6,933円となっており、前年度決算額と比べると、54億612万4,490円減少しています。

次に、歳出においては、144億5,302万8,828円となっており、前年度決算額と比べると、55億2,925万3,616円減少しています。

これら歳入歳出の差3億4,202万8,105円を翌年度へ繰り越すものですが、この繰越額には、翌年度へ繰り越すべき財源として、繰越明許費繰越額2億7,689万3,475円及び事故繰越し繰越額1,239万2,740円が含まれておりますの

で、これを差し引いた実質収支は5, 274万1, 890円の黒字となっています。

国民健康保険事業特別会計につきましては、歳入は51億3, 394万6, 878円、歳出は50億8, 921万462円で、歳入歳出の差引は4, 473万6, 416円の黒字となり、これを令和2年度に繰り越しました。

後期高齢者医療特別会計につきましては、歳入は6億3, 284万7, 182円、歳出は6億2, 953万4, 273円で、歳入歳出の差引は331万2, 909円の黒字となり、これを令和2年度に繰り越しました。

介護保険特別会計につきましては、歳入は35億1, 133万4, 120円、歳出は34億9, 494万7, 232円で、歳入歳出の差引は1, 638万6, 888円の黒字となり、これを令和2年度に繰り越しました。

墓地事業特別会計につきましては、歳入は1, 209万3, 691円、歳出は1, 209万3, 691円となり、歳入歳出とも同額となりました。

水道事業会計につきましては、総収益は8億9, 704万2, 264円で、総費用は8億6, 241万5, 484円となり、差引3, 462万6, 780円の当年度純利益となりました。これに、平成30年度からの繰越利益剰余金1億1, 970万3, 460円及びその他未処理利益剰余金変動額1, 500万円を加えた結果、1億6, 933万240円の当年度未処分利益剰余金を計上することができました。

下水道事業会計につきましては、総収益は10億8, 184万7, 359円で、総費用は10億4, 064万6, 649円となり、差引4, 120万710円の当年度純利益となりました。これに、平成30年度からの繰越利益剰余金3, 497万7, 044円を加えた結果、7, 617万7, 754円の当年度未処分利益剰余金を計上することができました。

続いて、令和元年度において重点的に取り組んだ施策についてご説明いたします。

令和元年度は、私の1期目4年間の集大成の年であり、その町政運営においては、町長就任以来、徹底してきました住民の皆様との対話と情報公開を旨とし、様々な取組を実施してまいりました。

とりわけ、「平成30年台風第21号」をはじめ「大阪府北部地震」や「平成30年7月豪雨」など平成30年度に発生した多くの災害から得られた教訓を活かし、迅速かつ機動的な災害復旧を実現するための財源確保策として、10億円を原資とする「防災基金」を創設するとともに、令和元年度を熊取町の「防災元年」と位置づけ、防災・減災、安全・安心を施策の柱としてまちづくりを進めてまいりました。

そのような中、令和元年度末に感染拡大した新型コロナウイルス感染症「COVID-19（コビットジウキュウ）」につきましては、国の対策に先駆け、いち早く「熊取町版緊急生活・経済支援」を実施するなど、住民の皆様の不安を少しでもやわらげるとともに、安定した生活基盤を守るべく必要な対応を行っているところです。今なお世界的な感染拡大に歯止めがかからない状況が続いているところであり、引き続き、「新しい生活様式」に基づく感染予防について呼びかけてまいります。

それでは、令和元年度の具体的な取組について申し上げます。

最初に、住民協働・住民参画については、平成30年度に改訂した「熊取町協働憲章」に基づき、住民提案協働事業制度の手続きの簡素化や迅速化を図ることで、より提案しやすい制度に改善しました。

交通安全については、全国で園児などを巻き込む交通事故が相次いだことを受け、横断歩道のある交差点の独自点検を実施しました。加えて、未就学児が日常的に集団で移動する経路などについても、泉佐野警察署や町立・民間保育所など関係機関の立

会いのもとで一斉点検を実施し、危険箇所の共有と安全対策を図り、園外活動時の安全対策にも寄与したところです。

防災については、前述のとおり、「防災元年」の位置づけによる機運醸成や「防災基金」の創設による財源確保を図るとともに、防災に携わる人材の確保及び育成として、地域住民及び町職員を対象とした「防災士育成研修」を新たに実施し、90名が防災士に合格するなど地域の防災リーダー育成による地域防災力及び町職員の災害対応力の更なる向上を図りました。

また、緊急速報メール回線の冗長化、指定避難所防災倉庫の増設及び段ボールベッドや自動ラップ式トイレなどの防災資機材の充実といったハード面の整備はもとより、自主防災組織連絡協議会に「自主防災モデルマニュアル作成委員会」を設置し、「地区別自主防災マニュアル」の作成を促すためのモデルマニュアルを作成するとともに、大地震などの緊急事態時に世帯の安否などを示す「無事ですカード」を作成し全戸配布するなど、ソフト面の充実にも注力したところです。

さらに、災害時における連携協定として、奈良県の三郷町及び王寺町との相互応援協定をはじめ、町内3大学との連携協定や株式会社ロゴスコーポレーションとの間において物資供給に関する協定を締結しました。

加えて、「熊取町地域防災計画」及び「熊取町国民保護計画」について、国や府の計画変更との整合を図り修正を行いました。

子育て・保育については、住民と行政の協働による地域ぐるみでの子育て支援のネットワーク化をさらに推進すべく、「多様な子どもの育ちや暮らしを認め合い、支え合う、対話的まちづくり」を基本理念とした「第2期熊取町子ども・子育て支援計画」を策定しました。

また、妊娠期から子育て期にかけて、切れ目のない支援を行うことにより、子育て

の悩みを分かち合い、地域へ一歩踏み出すきっかけとなるよう、本町の特長的な取組であるホームスタート事業の実施や、地域子育て支援拠点事業の実施など、地域団体と連携しながら、引き続き地域の子育て支援の充実に努めました。

さらに、新たに認定こども園として運営を開始したフレンド幼稚園に対して、延長保育事業などの特別保育にかかる補助金を交付するとともに、令和元年10月からの幼児教育・保育の無償化にあたっては、預かり保育などを行う民間保育所や認可外保育施設などに対して施設等利用給付費を新たに支給したほか、公民連携のもと保育所における待機児童“ゼロ”の継続に取り組みました。

加えて、学童保育所の適正な運営を支援すべく、受入枠拡大として中央学童保育所と西学童保育所で2クラブを増設するとともに、西学童保育所についてはさらなる受入拡大に向けた施設などの整備を実施し、待機児童“ゼロ”を維持しました。

学校教育については、学校におけるいじめ、不登校、児童虐待など、子どもを取り巻く様々な問題に対し多面的な支援を実施するため、スクールソーシャルワーカーを1名増員し、全小学校区に配置したほか、英語指導助手、学校図書館司書や教育相談カウンセラーなどの専門的人材を引き続き配置し、児童・生徒へのきめ細かなサポートに重点を置いた取組を進めるとともに、校務用パソコンの追加整備により、教職員ひとり一台の整備を行うことで、子どもたちと向き合える時間のさらなる確保に寄与したところです。加えて、各小中学校のコンピューター教室について、リース期間の満了及び小学校におけるプログラミング教育の導入などに対応するため、機器の更新を行いました。

また、教育環境の整備として、懸案のトイレ洋式化改修につきましては、中央小学校、西小学校、北小学校及び南小学校の一部の改修工事を完了するなど、計画的に進めているところです。加えて、平成30年台風第21号により被害を受けた熊取南中

学校における校舎屋根災害復旧工事についても完了するなど、必要な施設の整備を実施しました。

生涯学習については、熊取図書館が開館25周年を迎えたため、記念事業として町内に縁のある音楽家のコンサートのほか、年を積み重ねることをテーマとした「年縞（ねんこう）」や「熊取町の大地の生い立ち」についての講演会を企画・実施しました。

文化・芸術については、公民館、町民会館の老朽化への対応として、「熊取町公共施設等総合管理計画」に基づく庁内調整会議などにおいて今後のあり方を含めた検討を行い、整備方針を決定したところです。

また、平成30年台風第21号により被害を受けた重要文化財中家住宅については、倒壊した表門の復元と主屋の屋根及び壁などの修理工事を完了しました。

健康・長寿については、介護予防の効果的なツールである「タピオ体操+（プラス）」を活用した、「タピオステーション」の立ち上げ支援及び継続支援を引き続き実施し、令和元年度末時点で24か所において立ち上がっております。また、大阪体育大学との協働による「“熊取町×大阪体育大学” DASHプロジェクト」の取組として、この「タピオステーション」の効果判定に向けた体力測定結果の分析を開始したほか、体力測定ボランティアをはじめとする健康づくりボランティアの育成を目的とした「フレイル予防サポーター養成講座」を開催しました。

運動・スポーツについては、住民の健康増進とスポーツ振興や相互の親睦に寄与すべく「町民総合体育大会」を開催したほか、「大阪国際武術太極拳交流大会」を後援し、「太極拳フェスティバル」と連携して実施するなど、スポーツへの参加意欲を高める機会の創出に努めました。

また、令和元年5月15日に設立された「くまとりスポーツコミッション」については、スポーツを活用したまちづくりや地域活性化につながる地域の取組として、そ

の活動支援を行いました。

高齢者福祉については、高齢者の教養の向上やレクリエーションなどによる健康増進への寄与を目的とした老人憩の家において、平成30年度実施の耐震診断に基づく5地区の耐震補強工事実施設計を行うとともに当該工事に着手したほか、新たに15地区の耐震診断に着手し、うち5地区は完了するなど、鋭意取り組んだところです。

市街地整備については、熊取駅西整備事業として、事業用地の取得や熊取駅西交通広場の詳細設計などを実施するとともに、引き続き「地域の魅力づくりプロジェクト<熊取>推進協議会」による駅周辺の緑化プロジェクトを進めるなど、本町の玄関口にふさわしい良好な市街地の形成に向けた取組を進めました。

道路・交通については、都市計画道路の整備促進として、大阪岸和田南海線の事業推進や大阪外環状線の4車線化に係る要望活動を実施したほか、泉州山手線については本町を含めた岸和田市、貝塚市及び泉佐野市の三市一町で構成する「泉州山手線整備推進協議会」で要望活動を行いました。

また、町道の新設改良として、児童生徒の通学時の安全確保のための町道久保高田線歩道拡幅事業に向けた事業用地の取得を完了し、早期の完了をめざし令和2年度において既に工事を進めているところです。

加えて、町内の主要公共施設などと各地域を結ぶ町内循環バスの運行については、令和元年11月1日にルート変更やバス停移設などの運行見直しを行い、さらなる利便性の向上に努めました。

水道事業については、水道水の安定供給を図るため、重要給水施設へ供給する管路の耐震化を進めるとともに、希望が丘配水池及び事務所の耐震化工事の実施設計業務を実施しました。

また、大阪広域水道企業団との水道事業の統合については、令和2年1月の首長会

議において統合案を取りまとめ、町広報紙やホームページによる住民周知を行い、3月議会定例会において、同企業団との統合に関する議案として、企業団規約の変更に
ついて議決をいただいたところです。

なお、令和2年7月28日に同企業団と統合に関する基本協定を締結しており、引き続き令和3年4月からの事業開始に向け、統合準備を進めてまいります。

下水道事業については、小垣内、大宮、朝代及び大久保地区において、公共下水道
工事を実施し、年度末人口普及率が81.6%となりました。

また、安定的な下水道事業を継続するため、「熊取町下水道ビジョン」の策定に着手
するとともに、新たに下水道事業経営委員会を設立し、開催したところです。

公園・自然環境については、永楽ダム周辺の桜の景観を次の世代に引き継ぐため、
特定非営利活動法人永楽桜保存会との協働により、雑木の伐採や桜の植栽を実施した
ほか、「熊取町公園施設長寿命化計画」に基づき、国の社会資本整備総合交付金を活用
し3箇年計画により進めている「長池オアシス公園」の整備のうち、ボードウォーク
の更新を行いました。

循環型社会については、環境センターの施設長寿命化に向けた改修・整備などを実
施しました。

また、広域での新ごみ処理施設整備に向けた取組として、施設整備の方向性や規模
及び処理方式などの基本的事項に係る施設整備基本計画の策定に着手したところであ
り、令和2年度において当該基本計画を完成させるとともに住民の合意形成を図るべ
く、近隣自治体との協議などを慎重に進めてまいります。

加えて、し尿処理に係る泉佐野市田尻町清掃施設組合への事務委託による広域化に
ついては、関係機関との協議などを進めたところであり、令和3年4月からの事務委
託開始に向けた規約の制定や協定書の締結の手続きを進めてまいります。

このほか、平成30年台風第21号の経験とこれらの教訓を踏まえた「災害廃棄物処理基本計画」の策定については、国や大阪府と連携しながら、令和2年3月に計画骨子を作成したところであり、令和2年度において当該骨子を基に計画を策定してまいります。

農林業については、地元産農作物の良さを知っていただく機会の提供として、各方面の方々の参加・協力を得ながら、令和元年12月1日に「第8回ふれあい農業祭」を実施し、約7千人の来場者で賑わいました。

観光・交流については、熊取町駅前観光案内所として運営してきた「駅下にぎわい館」を、くまとりにぎわい観光協会の活動拠点とし、観光案内所機能の強化を図って、平成31年4月17日にリニューアルオープンしました。

また、新たな観光スポットを創設するため、果樹農園を開園する団体への補助により推進しておりますブルーベリー農園については、令和元年7月15日にお披露目会が開催されたところですが、その後農園の規模拡充も行い、令和2年7月11日に待望のオープンとなりました。

行財政運営については、住民の皆様の利便性向上を目的として、令和元年10月から開始された「地方税共通納税システム」を活用した納税方法の多チャンネル化を図るとともに、大阪府域地方税徴収機構への参加などにより、町税では前年度比0.5ポイント上昇の98.3%の徴収率を達成しました。

さらに、平成31年4月16日から、マイナンバーカードを利用した住民票や戸籍謄抄本などのコンビニ交付サービスを開始し、サービス利用時間が6時30分から23時までと大きく広がるなど利便性の向上を図るとともに、マイナンバーカードの申請手続きにおいても、タブレット端末を利用したオンライン申請及び本人限定受取郵便による交付の導入により、窓口の混雑を緩和するなどサービス向上や事務効率化に

努めました。

このほか、生産性向上を実現するテクノロジーとして、定型的で反復性が高い業務に威力を発揮するロボティック・プロセス・オートメーション、いわゆる「RPA」について、実証実験や適用可否の判断を経たうえで、税、収納・滞納、児童手当の3業務において導入したところです。

情報の公開については、住民の皆様からの忌憚のないご意見を伺い、開かれた行政をともにつくることを目的として実施してきたタウンミーティングや直接対話について、皆様のご協力のもと、順次、開催した結果、タウンミーティングについては、全5回の開催で、計188人の方にご参加いただき、多くの貴重なご意見を賜りましたことに感謝を申し上げます。

今後におきましても、住民の皆様からの声をしっかりとお聞きすることに加え、令和2年10月号からの町広報紙のA4版化に向けた準備を進めるほか、ホームページとSNSを連携させたプッシュ型の情報発信に努めるなど、徹底した情報公開を推進してまいります。

以上、重点的に取り組んだ施策のほか、各主要施策の推進にあたりましては、年度当初にお示ししました町政運営方針及び所信表明での考え方や方向性を基本に、社会経済環境の変化を的確に見極めながら、計画的かつ効果的な行財政運営に努めたところです。

なお、次ページ以降の「主要施策成果等一覧表」は、主要施策の事業内容や実施状況などについて、第4次総合計画に定める将来像の実現に向けた施策の大綱に従い、整理していますので、後ほど、ご覧ください。

最後になりますが、令和元年度の様々な施策について、成果報告できましたことに

深く感謝申し上げます。

改めて、令和元年度の一年を振り返りますと、「防災元年」にふさわしい、自然災害に対する日頃の備えの重要性など、心に刻まれた教訓を形に変える取組に力を注いだ年であったと感じております。その中で、年度末から感染拡大が続く新型コロナウイルス感染症「COVID-19」につきましては、未知の脅威として今なお抜本的な解決策が構築されていない状況の中で、住民の皆様にも最も身近な基礎自治体として、必要な対策を迅速に実施してまいります。また、町長2期目当選直後から、2040年を見据えた取組として「スマートシティ熊取」に着手し、構想の策定をはじめ、役場での手続きのオンライン化や町内キャッシュレス化などの取組の検討を進めており、住民の皆様が利便性を感じていただけるまちづくりの土台を、将来に向けて構築してまいります。

今後におきましても、安全・安心をまちづくりの基本と位置付け、貴重な財源を有効活用し、第4次総合計画の将来像の実現に向け、住民の皆様との積極的な対話を進めながら、自然に恵まれた豊かな住環境の中で、子どもから若者、高齢者まで、いつまでも元気でいきいきと、永く楽しく日常生活を送り続けることができるまちづくりを推進してまいりますので、引き続き、議員各位をはじめ、住民の皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げ、説明を終わらせていただきます。